

安く一万円で一日遊んだことを

きしだ

ハガキⅠ

あそびと言つても色々あり、金と相談だ。一攫千金、夢の暗黒。又は、つまみ物を喰うこと。又あそび。と三種類に分かれる。

小生は、女あそびを専ら。

安く一万円で一日遊んだことを。朝十一時に鶴見橋のミュージック。名まえはミュージックをモストリップだ。一日四回か五回見る。三千円だ。

そして、夜になると飛田を一萬六千円で。それから、サウナニューセロイで全身体たつて帰り、ビール、酒のんで帰る。オワリ

ハガキⅡ

麻雀とは遊びで一番おもしろい。勝負とは力のけで。何かの遊びはあさがくる。が、麻

雀はあそびが二はないし、やればやるほど、二の世の中が一番おもしろいと、僕は信じている。

話は変わるが、尾の山光のた二部屋で一週間働いて、二時間残業の金を出さなれ。おまけに顔のミケンに一生きず。にくい。つぶせ。

ハガキⅢ

この世の中が一番だいいのは金か、それとも女か、愛か、なんだろうか。

友と話した事を書く。

友は金だと言つてきた。

小生も負けじと飲だ。

とこし話合つたら同じであつた。

イン子ギ予想屋

ハツタリ商売ロクデモ収えや

岡野雲助

「何ぞ、今日のハツタリ何ぞ、こくッ」

「どうでロクなもんじゃぬえから軽いもん

でイイッ」

「じゃあ、白い着物にすっかア」

「それイイッ」

八田利太郎を兄貴分とする親類、擬・馬のイン子ギ予想屋四人組の朝の出巻である。

ハツタリとは客を寄せるへたます道

具の二と、。ロクはもんじゃぬい。とは客

の二と、。白い着物。というのがハツタリに

使う道具のうち、この日は山伏や行者の着る

ような白い着物に白鉢巻、朴歯の白い太い

なものを下駄、ドンケリアメほど大玉のジューズ、

六尺棒のさきに鈴をつけたもの。

この他、日にゴリ行矢によつて易者のかつ

こうしたり、つけひげしたり、エビスさんみ

たいな姿、剣道着に、刀を研ぎ、あらか

め仕掛をした竹を切ったり、空手、柔道等

割れ目を絵具とりのりでゴマ化したカワラ

を割ったり、スバを抜いた蛇を使ったり、好

奇心の強い人を寄せるために、ハツタリをい

ろいろ工夫する。

デキヤをいう「タンカバイ」マサンズン

ロキ三寸、タンカを切つて、ガビネタ。をバ

イへ走つてくるあのやりくちである。

彼らは族から族の股旅渡世を同じ地方に長

くは居らないへ居れない。大段なら西成、
京都は内渡、南東へ行けば山谷、その他大
都市にはドヤ街があり、なれた方には駅前
へ裏へに大い商人宿という行商人などの
安く泊れる宿がある。

合都星のところが多く、二ついつところ
を行商人やテキヤはタカマ干へお祭りや露
店のある所の情勢などを交換する。

西成からなら、住之江、岸和田へ春木は
黒田知事が高い税金便、てつぶした、和
歌山、向日町、ビワ湖、奈良、民々崎、園
田、甲子園、西宮、なんばと梅田の場外、
と日帰り交通圏のところを一編催期間の大
日、ときには三日、一日、軽々とシ。バ変
える。

こういう渡世人はエンギをかつぐし、ま
たガビネタなどバレタリ、代廻り口のきき
方一つで都合の悪いことがあきたりするし
一日でも半日でもミでへ店、見せしをタタ
ムへ仕舞うとも書くが終う、片付けし

なく、彼らの手作りの予想表である。

料理でも手作りの味というものは味のある
ものだ、この手作りの予想表もなかなか手
の込んだものである。

予想表は夜おそく、明日のシ。バ向に工夫
したものがつくられる。

午後十時頃になると、地下鉄動物園前が南
海鉄の赤屋駅がド下の新聞売場に明日の予
想新聞が売出される。

ジャンルの好きな人はこれを買、て、明
日の作戦を立てなければならぬと寝られない
という人もある。毎夜多勢の人が来
る。ま。こいる。

我の茶屋の売場など、ジャンルの休日の水
曜日の前夜と水曜日の朝は休業するという、
一般の新聞休刊日とは全く関係のない休方
をとする新聞売場である。

兄弟たちもここをとり予想紙を賣ま
めてくる。それこそ昨日の予想ととも今日の
結果が出ている。

である。

八田利太郎はそうしてハタタリ予想屋の中
ではかなり年輩の入った顔のさく兄貴分であ
った。

もとはテキヤで、関東イナガワ一家の若い
者だと本人は言う。海軍特攻隊くずれとこれ
も本人のはなし、予料連は何期生でした、
とぎくと昭和十八年矢一だという。陸軍で
は何年兵というが、海軍では何期という。詳
しくきけばいやがりそうなのをやめた。

ハタタリ渡世をやっている、特攻隊だっ
たとか、何組の若い衆ということもいふ時
があるのだから、何故海軍特攻隊がでるの
のだろう。鶴田浩二のせいだろうか。

彼の二ことを兄貴と呼ぶ味方が三人いて、一
人が息子、一人がサクラ、もう一人がシケハ
見張りを受持、てインチキ予想表を。口クで
もない。客にうる。

研究、ダービー、総合など予想紙がいろいろ
あるが、そういうレキとしたものではない

この今日の結果が明日はどのシ。バにす
るかとかバネタづくりとハタタリづくりの材
料になるのである。

いろいろ検討して、明日は岸和田にしよう
と思いがきめると早速四人が手分けして明日
の。ネタ。をつくる。

ネタは二種類つくられる。

一つは今日の結果のうちから、ファナなら
気のふかれるような的中を含めて、七割ぐら
いの的中率にしたものを今日の日付をへつま
り終ったものを十枚ぐらいつくる。これが
明日の客がみ、かかるネタなのである。的中
してない三割位も4、5枚なら5、4とか4
、3とかウラ目か片目を入れておく。

もう一種類の方が明日の売物にする方で、
これは買集めた前夜版から適当に、ありふれ
た予想表にしておくのであるが、ナレースの
うち、どれがナレースぐらいは空白にしてお
く。これを三十枚か五十枚つくる。ハタタリ
道具とともに小型のとうし。版をも、ていて

これを印刷する。

ネタがさきると四人は赤井に出かける。今日のもうけがよかったりすると、兄貴はたびたび料理の出来ない料理を八分目をついて、たりする。

翌朝は八時か九時におき、朝風呂で七ゲをそり身洗いにする。客をだます術者だからこれは念入りにする。

朝めしは酒は軽く一ぱいだけ、利貝や牛鍋で充分腹ごしらえをする。現場へ行けばメシ食うにマもないし、飯は露天、冬は吹きさらしで、つらい悪寒なんだからと彼らはいう。

ハッダリ道具やネタがあるのさ、なじみの白タクを目的地につくと、代廻りの地においこつし、場外の少しは歩いたところにはシヨバ刺をもらう。ヤセネタだから、あまり人通りの多いところより、目立たぬようメズラシがりかそ、こよ、こくるようなところかよい。新聞を広げた位の自然の上に、昨日の予想

をしていゝが、志子は一だんと声をハリエゲて「ハイッー昨日もうけたお客さん、お祝儀アリガトー」と赤〇つけた昨日の予想表に赤井をピンとめる。

「ここは志子の正倉庫さ、昨日の的中率七割、バツタンの的中、本日またまたオメデトー」とよくしたてる。

カクウもまた、「今日ももうけさせてやれ」と早くも千円札を数枚みらくさせ、今日の予想表を早く見せとせかせる。

せかされてすぐ来るようでは、値うちがない。いつのまにかジモンをやめた先生が、今日のネタを手帳に書き入れしやべし。

これがまた客の気をひくため、ながくとやるが、天文堂の如き、統計学の法則だのいかったようだけれんような、おれや二れやの店かに、天下の大道をこれらの二にモノと一しよにされては困る。通産省？も司法省？も許可するはずがない、この原理は一冊の本にまとめ、デパートで売っている。信

著

の的中箇所へ昨夜つく、たがセネタしに赤井をつけたり、金額をかきこんだり、も、ともらしいことを志子の命令がやっていると、相合をみこ、シヨバ千の兄貴が、白衣に白鉢巻大尺袴を突然天の一角に向、二ッヤアッーとふりかざし、鈴を鳴らす。これは何人かの「口クでもないヤツ」が何番かと近づいてくる。サカウ役もとぼけて一しよにまぎれ込む。見えるはずのない天の一角を垣か見えるようにニラミするのガシンウ千のベテランである。適当に人へ客が寄、たところをガラリと掃きする、道にかけた大王のジモズをジマリジマリいれせながら垣やらジモズをとなえる。

サカウ役は、昨日のかセネタをだして、この先生はようおたる。昨日はもうけさせてもらたせと証にもなくしやべる。これはかかえぬにやるのがコツだという。

そして志子に何枚かの千円札を「先生、昨日はアリガトウ」と渡す。先生は知らん顔

用を重しじるデパートが扱う位だから信用できる。だが一冊八千円、今ここの二れを売つても、お客さんこれから勝負に行くのにはせにけるだろう。だから宣伝のため、この研究の成果を今日の予想だけ披露したものがこれだ。十枚だけ、早いもの勝ち。今日は宣伝のため私たちの交通七だけあればよいので、ほんの気持だけ千円さよ。尚このうち二レースは特別予想だからぜ、たいハズしなし、今かいてあげるから一つ五百円、二レース千円合計二千円、若し万一まちが、これたら、いづるもここへきてくれへまちが、これたら金は返すとはいれないし。

とびつく客があればよし、なければサカウが誰も手を出してないのに「オレが死やると手を出す。ふしぎなものさ一人が手を出す」と何人が手が出る。そうなるさ、ギ十枚だと云、たのが、いつのまにか二十枚をこすとギもある。それには疑の道は疑というのか、とまには本当の八百長し、くあ、こ、この

情願が尺量には分つてゐることがある。そう
いうときは本当に大元が当るものあるから、
また明日は大きな顔して同じ三ッべに立てる
のである。

このネウ、ハガキ二枚位の工賃の抽きつく
るが、一枚二千円を一日三十枚から六万円五
十枚から十万円が、この四人の受工である。
こゝから三ヨバ代はと上納金、交直費、ネウ
代、宿泊費などは差引くと、大したもうけにも
ならぬえ。ロウ房も同じで収入とと彼らは
いう。

・昭和三五年から四十年ごろのことであるが、釜のアニコの日記が、一日八百円前後、四十年頃で千二百円ぐらいのとき金額がある。

最近、十二バの海外馬券売場の近くを同じ
ような天文堂用星座法とかいうのをみ
かけたが、一枚六千円をサクラがまじ、こい
ろとしても、三十分ほどで大枚売上げていた。
ところを彼らは、自分たちは手強りほげ
ったいやらぬえ、ギャンブルだんてもうかる

へ編纂委員会からお知らせへ

「渡世」が単行本になりました

風媒社という出版社が名古屋にあります。
その出版社から去年のくけ、今まで出した
所著者渡世をまとめた単行本にしませんか
という話があり、編集委員会と相談した結果
当時から休みはじめた中原君の一位とい
う申し出もいれてみましたがOKしました。
そこで十五号までの雑誌のなかから選んだ
前事を単行本として読みやすいようにするた
めの再編集の作業に、編集委員会が当たりま
した。八月十日その単行本が出版されま
した。

これは、釜の内部向けヒールより、釜の
みなさんは雑誌の出てゐるたびに、
すからん、釜の知れを待つ外部の人が主に読

ハズはねえからな。という。

夜おそくネタつくり盡して、印圖まで手つ
くりで、朝も身仕度、ハツタリの用意、火天
吹きさらし、あたりへ氣をくばつて走りさば
ぎまで、長時間、重荷なり。

旅から旅のハツタリ商売、一ヒきの事だ
の、なじみにな、た女とこころへ、昨夜の
女は口クなもんじ。ゆえーといながら、今
夜もまたス三折のーつをもつて、マダ氣取り
で、。口クでもゆえヤツ。ヒダマした金をも
つてトビタへ、口クもゆえ金づかいに行く
のである。

全く口々でも聞えお話をした。

むことになり、そうは本ですが、投稿や読者の声のなかから、次に名前をあげる方々のものを単行本へ入れさせてもらつてます。

畢祐上の不備を前も、乙連絡できなかった、
二ヒをお許し下さい。

次に名前をあげる方々には、單行本、所釋者渡世々を一冊宛さしあげますので、金生段にのりて収めます。

また、そのほかに見、之読んてやううとい
う方もいると思ひますので、販売用を少し笠
生地に用意してあります。